



こんにちは！三島会館です。

連日の猛暑、いかがお過ごしですか？

ニュースや天気予報の「危険な暑さ」という言葉にもあまり驚かなくなってきたくらい、連日の猛暑ですが、地域の皆様におかれましては、暑さ対策もしっかりとなさっておられるでしょうか。長期予報によると、9月も10月も平年を上回る気温で、当分の間、暑い日々が続くようです。

一方で局地的な豪雨による被害が出ているところもあったりして、晴れたら猛暑、降ったら豪雨になったりするなど、これまでになかった1年になるかも…です。

日本は美しい四季の変化があることを私たちは経験として知っていますが、もしかすると長い夏と冬、短い春と秋になって、ちょうど過ごしやすい時期が、そんなに長くないかもしれませんね。無用な心配に終わることを願っています。

「敦賀まつり」へは行われましたか？

この「たより」が皆様の目に触れる頃には、もう「敦賀まつり」のピークは過ぎているのではないのでしょうか。

「まつり」に行かれた方も行かれなかった方にも、ここで「敦賀まつり」（氣比神宮例大祭）の歴史について少しご紹介します（すでにご存じの方もおられると思いますが…）。

＜出典と写真は「みなとつるが山車会館」のホームページです＞

①つるがの山車のはじまり

定かではないが、室町時代末期には存在したといわれている。

②祈願したこと

怨霊や疫神を町の外に追い出そうとしたのが始まりだと考えられている。市内の寺院に残る古文書には、1575年に織田信長が見物したと記されている（ただし言い伝えの域を出ない）。

③江戸期

氣比社の祭礼は、宵宮が8月2日、本祭が3日と4日に行われ、宵宮には紙細工の屋台が、3日には小山車、4日は大山車と小山車が曳き出された。

④明治期

1875年（明治8）以降は、一ヶ月遅れの9月3日～4日に祭礼日が定着し、現在もこの日程で行われている。

町名・町区画の変更や不景気、大火等により、山車の数や山車町が幾度も変更される中で山車巡行が維持されていた。

⑤戦後から現在

空襲による焼失などでしばらくは山車巡行も中断されたが、それでも困難を乗り越え、昭和57年に3基そろって巡行、平成6年にはさらに3基の山車を復元させ、現在の形になった。

